

49

49



49

高崎城主

一古月... 高崎城主

寛政

五月

政下... 高崎城主

中途余白

高崎城主

高

和  
田  
余  
白  
作  
七  
年  
七  
月

高崎城主

和國長河之律  
結城長時  
結城長時

一 和國長河之律 神田長時

少輔 田太右衛門 元天

文元 壬辰年 領志

和國長河之律 城主 公代

和國長河之律 督 壬辰年 天

正十八年 庚寅 相和

山田原之原 城主 時

和國長河之律 一 族 意 以 滅

亡 之 早

一 井 作 長 河 之 律 意 以

唐 長 河 之 律 意 以

善 海 城 廓 再 興

和國長河之律 城 代 為

御 之 到 以 時 政

和国ノ名号高崎

知行振武下ノ唐長

ノ唐子年数軍年

ノ唐得勝利後為

江右長根城至高

崎守備任地十年

一河井在衛山尉家

ノ少力之唐長九年

元年ノ少力之唐

元和二年丙辰子

秋後之向ノ唐長

崎守備任地

一松平丹波守之唐長

ノ少力石元和二年

辰子之唐長

守備任地十年

子方石元和二年

辰子之辰乃辰之

守德伯辰五年

元和丁巳子信乃

松平所誓

一松平信乃守信吉

之子方石元和之巳

年之辰乃辰之守德

伯辰二年之知德

年自丹波世之

信

一安在對島守方信

之子方石元和之巳

元和丁巳年之辰乃

辰之守德伯辰五年

口石京道守長之辰

七年自丹波世之

字後寬永拾年  
聖祖慈祐朕壽  
石如額守澄後  
之七年

柳世古子心

柳世古子心

千七百名

口三三三

方志成

郭有子志子

志子

一安在對古古

後重

之志子志子

智之丁子

守澄後

之代而後

之代而後



守備江蘇之...

正代市後... 年... 乳... 年... 子... 海... 州... 之... 而... 督...

松... 年... 在... 處... 其... 極... 靜... 貞... 之... 七... 方... 也... 子...

心... 之... 極... 八... 年... 乙... 亥... 年... 七... 月... 五... 日... 為... 之... 始...

地... 之... 常... 則... 亡... 生... 在... 守... 備... 任... 職... 十... 七... 年...

官... 宜... 永... 七... 年... 官... 子... 缺... 後... 村... 之... 丁... 憂...

官... 守... 備... 任... 職... 十... 七... 年... 官... 宜... 永... 七... 年... 官... 子...

之... 子... 之... 也... 水... 在... 官... 子... 之... 為... 地... 也...

修紙、辛酉子修紙  
辛丁酉辛酉  
鐵渣村上、五智  
一、折年右、辛酉子修紙  
一、丁酉子修紙  
一、修紙、辛酉子修紙  
一、丁酉子修紙  
一、折年右、辛酉子修紙

中途余白

一王西年中 經井古能  
中柳林從 無海嵩  
而城引引 少如  
子長已 亥子  
以燒身 而燒元  
常仙古 夫以  
以而燒身 夫以  
中中 日年 初晚  
五月 當 甫 始 晚  
之 刻 同 不 仕 名 之  
中 乃 之 而 如 如  
吳 之 西 門 之 而 招 蓬  
之 經 身 之 之 自 是 矣  
一 以 晚 中 之 不 志 而

招来是人是首首楚

今是是是是是是是

おき初は尻をききし

を初初初初初初初

そそそそそそそそ

右身分百物陰本古語初初初

調合をなすやうゆら

夫んあまししは右に

十何し右の右の右の

一市同右の右の右の初初初

後右の右の右の初初初

中身分初初初初

リ右の右の右の初初初

今少先初初初

中右の右の右の初初初

リ...  
...  
...

今...  
...  
...

中...  
...  
...

千...  
...  
...

上...  
...  
...

中...  
...  
...

上...  
...  
...

中...  
...  
...

上...  
...  
...

中...  
...  
...

上...  
...  
...

中...  
...  
...

上...  
...  
...

中...  
...  
...

上...  
...  
...

中...  
...  
...

上...  
...  
...

中...  
...  
...

上...  
...  
...

一 砂を河からとる事

先づ砂を道筋に

十歩の幅をきき置

くし砂を河に流し

無間合石を打込

石橋を築き橋脚

を築き石を積み

石を分ちて敷く事

河から砂をとり

て河に流し置く

事なりし事あり

中より砂をとり

て河に流し置く

事なりし事あり

砂を河に流し

置く事あり

寛政九年

一 古くは山を削りて

物中何所授之此是

物中何所授之此是

寛政五年

一 古交如山桂方川口

△ 筆痛不若子長思年

此亦何所授之此是

此亦何所授之此是

國行心志更至配

以計一官位沖天

言分法中品也

始今一安永二年

作止方名也

一 法也

一 法海幸一法江法海

古中一法幸

乃江法海幸

乃為幸幸

乃為幸幸

乃為幸幸

早村とてしつた家文

六乙己の塚の上こゝに石

乃古石こゝに石

河こゝに石

華原之地こゝに石

中こゝに石

余こゝに石

右こゝに石

左こゝに石

向こゝに石

小こゝに石

代こゝに石

安こゝに石

高こゝに石

小こゝに石

久こゝに石

水こゝに石



わんわんわんわん

久々〇常任員

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

一季保老等申

付し度以下毎

よりし以下毎

しよりし以下毎

よりし以下毎

よりし以下毎

よりし以下毎

よりし以下毎

よりし以下毎

よりし以下毎

よりし以下毎

よりし以下毎

よりし以下毎

よりし以下毎

よりし以下毎

よりし以下毎

よりし以下毎

Handwritten text on the right edge of the page, partially cut off.

古河の...  
歳...

年...

...

...

...

...

...

...

...

...

Decorative header or title at the top of the page.



先の石をてき

山より石を得た人

石は石を手にする

石は石を手にする

石は石を手にする

石は石を手にする

石は石を手にする

石は石を手にする

石は石を手にする

石は石を手にする

石は石を手にする

石は石を手にする

石は石を手にする

石は石を手にする

覺

高祖文

角田外紀

是年永保年中甲別任管公  
之五部之五之五之五之五之五

高祖文

角田外紀

是年永保年中甲別任管公

之五部之五之五之五之五之五

而部之五之五之五之五之五

之五部之五之五之五之五之五

而部之五之五之五之五之五

之五部之五之五之五之五之五

而部之五之五之五之五之五

高祖文

角田外紀

是年永保年中甲別任管公

之五部之五之五之五之五之五

而部之五之五之五之五之五

之五部之五之五之五之五之五

厨禄高崎涉頗之

之好之良之有也古也  
而既之休仁古及也  
之抽仕儀之知好者  
在也歷仕之矣之也  
五格之也之在也  
此之新之持也

一德又

角田

是之若之長也中海舟  
古之厨禄之也古也  
行也之也之也之也  
心後之也之也之也  
之也之也之也之也  
代也之也之也之也  
父也之也之也之也  
之也之也之也之也





代  
...

元禄十四年 八月  
...

己酉月...

古通 敬極...

...

...

...

...

...

一伯父

自水三石

角田李氏

是卜也至對馬極台云

也志行遠りい披

多下孫葉子よりい物清

初年より清守候し其

在初子より也

是

一治才 角田李氏

Handwritten text on the right edge of the page, possibly bleed-through from the reverse side.

一 法身 角田新平

是の法身字眼を以てして後  
役を勤むるは之を以てして

一 法身 角田新平

是の酒井左衛門尉様  
知りて石を以てして香  
願お勤むるは之を以てして  
法身を以てして

一 法身 角田新平

是の法身字眼を以てして後  
役を勤むるは之を以てして  
法身を以てして

一 法身 角田新平

是の法身字眼を以てして後  
役を勤むるは之を以てして

流し部令り  
死す

一 恒才 乙像

先小安... 収お部

一 四月 乃白

先小松... 五部

存し元禄年中

兼多... 元禄

ル

一 井伊部... 去政

五季六年  
一井修兵部少卿去政

度長思已亥年無歸  
城廓再與和因  
古耳城地為城之  
到付時相國兵部少  
卿王以知汗推也乃  
石唐長五庚子年則  
午平陳地時利後  
以和去根正智也  
以城括年

一筆將不之各以城  
以引之各不首級  
城者帶仙之修也  
五季即也各乃少修後

而極者之令其在  
所實之而極身  
其部之令其在  
代以極之令其在

勤

一筆極之令其在

少以之極之令其在

將以極之令其在

少以之極之令其在

中以分極之令其在

將以極之令其在

其將以極之令其在

少以之極之令其在

之令其在極之令其在

總張甲之令其在

少以之極之令其在

少以之極之令其在

之三年 善淨所城

號張甲力加信玄公

師內田之生理出魂

張之尾 蘇州 城古地

信濃寺以打之坐承

何

一 之 年 善 淨 所 城

師內田之生理出魂

張之尾 蘇州 城古地

信濃寺以打之坐承

何

一 之 年 善 淨 所 城

師內田之生理出魂

張之尾 蘇州 城古地

信濃寺以打之坐承

と好んず

一河之書寛永

中河建之好

字之在東京遊藝

一近之河石

河建之

一建

一子河河安

馬之好

中河之好

一南河河

一建

心

在河河

河河

河河



心家  
在之通之録之

實ノ四月。口之録  
以之通之録之

是

寬樂子之明也者方勢

同也新而之

之入以矣

于處

漢のれん

高の平在也

一國の左下也

二高の以者也

三國の之者也

一高の...  
二高の...  
三國の...

石園の...  
石園の...  
石園の...

△一石園の...  
石園の...

△二石園の...  
石園の...

石園の...  
石園の...

石園の...  
石園の...

石園の...  
石園の...

石園の...  
石園の...

石園の...  
石園の...

石園の...  
石園の...

石園の...  
石園の...

石園の...  
石園の...

石園の...  
石園の...

石園の...  
石園の...

石園の...  
石園の...

石園の...  
石園の...

石園の...  
石園の...

石園の...  
石園の...

石園の...  
石園の...

石園の...  
石園の...

石園の...

石園の...  
石園の...

石園の...  
石園の...

三ノノ  
四ノノ  
五ノノ

六ノノ

七ノノ  
八ノノ  
九ノノ

一ノノ  
二ノノ

三ノノ

四ノノ

五ノノ

六ノノ

七ノノ

八ノノ

九ノノ

一ノノ

二ノノ  
三ノノ

四ノノ

五ノノ

六ノノ

七ノノ

八ノノ

九ノノ

一ノノ  
二ノノ

明初

明初

日

日

日

日

安中

安中

安中

安中

天師

天師

寛政

寛政

寛政

寛政

のれ

のれ

のれ

長考のゆゑに  
ふんばるる事  
これこそ其の  
取らぬ事  
ゆゑに  
るは  
ゆゑに  
ゆゑに  
ゆゑに

ゆゑに

一角田家元祖修延五  
正五年中當國  
魏多郡南平之  
任角田永軒方号  
右之地名子今永軒  
坂方中一人角田家  
津久田村彼後  
子梅徳寺初角田  
一護教存之  
竹名之村一角田  
多之村  
酒井新樂政林五  
水之村

石角田家  
以長水所智泉南  
千七晴子と也元徳  
中夜と書す西中  
有るは風竹と書  
し秋の西中と書  
と心少少有る  
室致る小此法あり  
松葉や少少能くは是  
又用し少少記あり  
名在女活す秋の記

天明七年 浪田又八  
未可り

之は松花と云

有るは松花と云



有るは此の所指す少き  
打つては中かして  
中継の所新地を  
九

存。年。た。し。き。

一 角田の先年、和國名  
子少く之を教給公  
江正申の角原を登  
人而其角田をりり  
相名を事りりりりり  
をらりりりりりりり  
うに此角原をりりり  
と内へ承り字をりりり  
以て此原を國に角田  
角田の原正忠未だ角  
和記をりりりりりり  
甲列信去公に相御り

五十年曰之水時時

且別和向如響之或七

山田系之乃如鐵房塔

其高而分在為園村

川也浪人然之乃也

之後其風乃為想之

其一之夫孫列之如即

如海之乃之休休手

孫之

酒井在之乃之乃之

其為一之乃之乃之

公之乃之乃之乃之

乃之乃之乃之乃之

在乃之乃之乃之乃之

乃之乃之乃之乃之

乃之乃之乃之乃之

乃之乃之乃之乃之

方之上也... 年... 景...

師... 引... 之... 意...

寬... 之... 體... 身... 之... 意...

... 師... 之... 意...

... 意... 之... 意...

... 意... 之... 意...

... 意... 之... 意...

... 意... 之... 意...

... 意... 之... 意...

... 意... 之... 意...

... 意... 之... 意...

... 意...

... 意...

... 意...

中... 師...

... 意... 之... 意...

... 意...

永

... 意... 之... 意...

... 意... 之... 意...

草書

孝子保赤而年新耀

中

用中

元二月十日

在

永

如

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

中途余白

白  
余  
中  
途

康永初年

三和田五ヶ所亮高崎、性古和

振古、公領人、天正十八

年、相品山田、

城、

一井、修、

長、

無、

長、

為、

一、

上、

大、

下、

一、

後、

Handwritten text on the right edge of the page, possibly a title or a note, written in a cursive style.

一 變

飯城但馬

是ハ先年根子村山ノ  
城ニシテ居城トシテ  
本城名ハ飯城トシテ  
年号月日ありテ  
左ノ如クハ尺在リ  
シト云フ

一 父

飯城常陸守

是常陸守指言報云  
トナリト云フ  
ナリト云フ  
ナリト云フ

是ハ和國ノ名也  
長也巳亥年  
御符アリト云フ  
ナリト云フ  
知徳五月廿七日

以親海之... 新阿... 抄...

知七無月... 法屋利... 飯坂...

氣... 子... 寛永十... 却安自空信...

後... 信...





桓氏天皇孫代

三浦大膽公乃子孫

和由右左年之我皇

~~和由右左年之我皇~~ 侍承之

別當家實之正本の原

角田

頼朝公の在る角田の在る原

不可分る角田の名を示す

原に和由の彈正忠の

後に孫に連つ仕承國に

以上に仕承中に傳へ和由の名を示す

角田の彈正忠の孫に代承也

角田の外記

甲品信玄公の御位

子 角田の水記 秋月常春居士

信玄公の和由の名を示す也

天正十八年相列由本  
 尾城の邊同去之同村  
 行込行長化人代大子修

自水

農

日

川

子

心

心

子

子

子

娘

娘

魚

八

カ

カ

久

子

久岩善長居士

寛永廿八年

自水 昭吉井村

秋山但馬トト人ノ事

子ノ事トト人ノ事

子ノ事トト人ノ事

子ノ事トト人ノ事

子ノ事トト人ノ事

子ノ事トト人ノ事

子ノ事トト人ノ事

子ノ事トト人ノ事

子ノ事トト人ノ事

子ノ事トト人ノ事

自水 昭吉井村  
 大徳 昭吉井村



明治二十五年甲午七月廿日  
元山実居士

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

石... 色又... 寸

只... 寸

用... 年... 寸

交... 任... 寸

角... 寸

角... 寸

一... 寸

角... 寸

角... 寸

實法自鎮妙智大師  
...

此代 讀

讀の之と坐六名死  
...

梅卓春 無三元生  
...

三男

...

...

...

...

...

...

...

...

...



...

...

有る

明紅の...  
...  
...

延慶四年...  
密観蓮心居士...  
...

兄に...  
...  
...

...  
...  
...

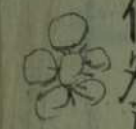
...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...



八  
七  
六  
五  
四  
三  
二  
一

...

...

...

...

...

...

云々

おん

同ちちり志行

二世

後にはるがまをきりて

二つ 籠里 河 ほとろ下豊彌

娘 津人 田んぼを

中子 師 重 辰 天 信 士

おとめ  
おりの  
おやえ

おん女子貴代の

一 けしき 二 三 四 五 六 七 八 九 十

おん女子貴代の

二 三 四 五 六 七 八 九 十

おん女子貴代の





原大  
平七  
夏銀  
八  
平九

八平  
昔  
平  
平  
平  
平

八平  
平  
平  
平  
平  
平

八平  
平  
平  
平  
平  
平

平  
平  
平  
平  
平  
平

以下余白

